

令和5年度 芦別市一般会計予算の概要

政府においては、国の令和5年度予算編成にあたって、足元の物価高を克服しつつ、経済再生の実現に向け、人への投資、グリーントランスフォーメーション、デジタルトランスフォーメーション等の成長分野への大胆な投資、少子化対策・こども政策の充実等を含む包摂社会の実現等による新しい資本主義の加速や、外交・安全保障環境の変化への対応、防災・減債、国土強靱化等の国民の安全・安心の確保を始めとした重要な政策課題についてメリハリの効いた予算編成を行い、その政策効果を国民や地方の隅々まで速やかに届け、日本経済を持続可能で一段高い成長経路に乗せていくことを目指すとし、地方財政対策においては、地方公共団体が住民ニーズに的確に応えつつ、地域のデジタル化や脱炭素化の推進など様々な行政課題に対応し、行政サービスを安定的に提供できるよう、令和4年度と実質的に同水準を確保することを基本として地方財政対策を講ずるとしているところです。

本市においては、令和5年度の予算は、総合計画に掲げる目指すまちの将来像の実現に向け、だれもが安全・安心に暮らすことのできる環境づくりに努め、一人ひとりが住み続けたいと思えるまちづくりに果敢に取り組む必要があることから、第6次総合計画、第2期総合戦略、行財政改革推進プランの三位一体による取り組みを基軸に、持続可能な自立した行財政基盤の確立に留意し、市民生活の質的向上と、地域経済の活性化を図る取り組みを着実に進めることを編成方針としたところです。

こうしたことから、限られた財源の中で、小学生の給食費無償化や保育所内におけるおむつ処分の取り組みなど、保護者負担の軽減による子育て支援策のいっそうの充実を図るとともに、滝里湖オートキャンプ場へのWi-Fi環境整備やガバメントクラウドなどの時代の流れに対応するためのデジタル化、人口減少を食い止めるための移住・定住施策の推進、雇用対策、産業振興策などの地域経済活性化の取り組み、中学校の統合に向けた環境整備、安全で快適な公共施設を提供するための長寿命化対策や脱炭素化に向けた照明器具のLED化に、重点的に予算を配分しました。

この結果、一般会計予算の総額は、113億7,700万円で、公営住宅建替事業費などの減少により、前年度当初予算との対比では、1億7,000万円、1.5%の減少となりました。

令和5年度予算の主な内容につきまして、「第6次芦別市総合計画」の分野別に掲げると、次のとおりとなります。

1 「市民とともに歩む協働のまち」に係る施策の推進として

- ・ 小学生の給食費無償化による子育て支援の充実【新規】
（※ 無償化となる給食費相当額 16,965 千円）
- ・ 情報共有・市民参加と協働の促進【継続】 19,022 千円（18,351 千円）
- ・ 地域・行政等のデジタル化の推進【継続】 22,977 千円（24,003 千円）
- ・ 中空知広域市町村圏組合をはじめとした広域連携の推進【継続】
2,308 千円（2,465 千円）
- ・ 持ち家取得奨励金制度等による移住・定住施策の推進【継続】
38,840 千円（37,500 千円）
- ・ 地域おこし協力隊との連携及び増員【継続】 17,908 千円（25,227 千円）
- ・ 星の降る里あしべつ応援大使及び星の降る里あしべつ応援団との連携【継続】
234 千円（436 千円）

2 「豊かな自然と共生する安全・安心なまち」に係る施策の推進として

- ・ 公共施設のLED化による脱炭素化の推進【新規】 104,398 千円
- ・ 住生活基本計画及び公営住宅等長寿命化計画の見直し【新規】 6,380 千円
- ・ 橋りょう長寿命化計画に基づく橋りょう整備事業【継続】
36,418 千円（45,500 千円）
- ・ 空き家等対策事業の推進【継続】 7,661 千円（5,277 千円）
- ・ ことぶき団地建替事業の推進【継続】 117,603 千円（612,132 千円）
- ・ 備蓄計画に基づく備蓄品の整備、防災ガイドブックの改定及び避難所の長寿命化対策【継続】 36,029 千円（20,625 千円）

3 「地域の資源や特性を活かした産業が伸展するまち」に係る施策の推進として

- ・ 私有林の間伐等森林整備に対する助成【新規】 14,000 千円
- ・ オンライン環境を活用した企業誘致と市外企業の視察招へい【新規】
2,281 千円
- ・ 大学生等を対象とした市内企業インターンシップ事業【新規】 410 千円
- ・ 新規就農者等に対する各種助成による担い手確保【継続】
11,676 千円（5,966 千円）
- ・ スマート農業推進事業【継続】 328 千円（308 千円）
- ・ ICT等活用したスマート林業の実証事業への協力と林業振興協議会との
連携【継続】 630 千円（530 千円）
- ・ 企業振興奨励金等の補助制度による中小企業支援【継続】
33,805 千円（35,156 千円）
- ・ ふるさと就職奨励金【継続】 5,390 千円（2,720 千円）
- ・ 求人情報サイトの運営【継続】 1,177 千円（1,177 千円）
- ・ 健民センター整備事業【継続】 136,818 千円（81,933 千円）

4 「ひとに優しい、ふれあいと温もりのあるまち」に係る施策の推進として

- ・ 保育所における「おむつ」の処分【新規】 85 千円
- ・ 出産・子育て応援給付金支給事業の実施【新規】 4,035 千円
- ・ 健康づくりに向けたニーズ調査とウォーキング事業の推進【新規】 200 千円
- ・ 第3期子ども・子育て支援事業計画策定に係る基礎調査、ヤングケアラー及び子どもの生活実態調査の実施【新規】 6,160 千円
- ・ 妊産婦安心出産支援事業による通院交通費の助成【継続】 496 千円 (558 千円)
- ・ 不妊治療費の助成【継続】 650 千円 (300 千円)
- ・ 幼児教育・保育無償化に伴う負担金対応【継続】 144,688 千円 (154,073 千円)
- ・ 特定教育・保育施設多子世帯副食費の助成【継続】 702 千円 (756 千円)
- ・ 後期高齢者の保健事業の推進【継続】 6,065 千円 (5,111 千円)

5 「地域とともに、学ぶよろこびを実感できるまち」に係る施策の推進として

- ・ デジタル学習ドリルの導入【新規】 1,411 千円
- ・ 芦別高校と連携した「地方創生塾」の実施【継続】 1,024 千円 (1,200 千円)
- ・ 市民会館・青年センター及び市民球場整備事業（公共施設長寿命化対策）
【継続】 82,390 千円 (22,676 千円)
- ・ コミュニティスクールの推進【継続】 565 千円 (571 千円)
- ・ 学校給食センター整備事業【継続】 42,403 千円 (26,201 千円)
- ・ 芦別高等学校入学生のうち市内に住所を有する保護者に対する修学奨励費助成金の交付【継続】 3,500 千円 (4,000 千円)
- ・ 修学奨励金交付事業等による私立学校の学生確保を支援【継続】
10,945 千円 (6,803 千円)

歳出につきましては、経常費が101億2,563万4千円（構成比89.0%）で、庁舎建設基金積立金、後期高齢者療養給付費負担金、除排雪業務委託料などが増加する一方、総合行政情報システム等各種システムの更新業務委託料、航空レーザ測量調査業務委託料、退職手当組合追加負担金などが減少したことから、前年度当初予算対比で2,017万4千円、0.2%の減少となりました。

事業費は、12億5,136万6千円（構成比11.0%）で、子どもセンターや本町地区生活館などの照明器具LED化、市民会館や市民球場などの公共施設の長寿命化対策に係る事業費が増加する一方、前年度事業費の4割を占めていた、ことぶき団地に係る公営住宅建替事業費が減少したことから、前年度当初予算対比で1億4,982万6千円、10.7%の減少となりました。

歳入につきましては、固定資産税、備荒資金組合超過納付金繰入金、観光施設整備事業債などが増加する一方、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金、公営住宅等整備事業費補助金、臨時財政対策債などが減少することから、

前年度当初予算対比で1億7,000万円、1.5%の減少となりました。

普通交付税につきましては、前年度本算定による決定額42億7,765万1千円に地方財政計画の伸び率等を勘案して見積もったところ、前年度当初予算との対比では、1,200万円減少の42億4,800万円を見込んだところであり、臨時財政対策債につきましては、地方財政対策において、国税収入の堅調な伸びによる法定率分の増加に伴う財源不足の縮減や、地方財政の健全化の観点から、44.1%と大幅に減少していることから、前年度当初予算対比で3,400万円、39.5%減少の5,200万円を見込み、これらを合計した実質的な普通交付税の総額は、43億円で、前年度当初予算対比で4,600万円、1.1%の減少となりました。

なお、歳入が歳出に対して不足する額は2億9,435万5千円となり、全額財政調整基金を繰り入れて収支の均衡を図ったところではありますが、財政調整基金の繰入額につきましては、前年度当初予算対比で1,853万5千円、6.7%の増加となりました。

このことは、歳入において、市民税（個人）や普通交付税、ふるさと応援寄附金などが減少している一方で、歳出においては、燃料費や電気料等の物価高騰の影響を受ける中であっても、市民の福祉増進を図りながら、基本的な行政サービスを維持するために必要な予算の確保をはじめ、子育て支援の拡充や移住・定住施策による人口減少対策の推進、雇用対策や産業振興策、地域・行政等のデジタル化への対応、公共施設等のLED化や長寿命化対策などに、積極的に取り組む予算を計上したことによるものです。

このため、今後においても行財政改革に取り組みながら、限られた財源の中で、着実に成果をあげていく行政運営に努め、「縮充と連携」の視点をもって財政の健全化と市民サービスの充実を図っていく必要があります。

本年、芦別市は市制施行70周年・開拓130周年を迎えます。

このことから、今後、まち全体の機運を高めながら、この節目の年を市民と共に祝い、先人たちの労苦に敬意を表するとともに、さらなるまちの振興発展を願い、秋の記念式典をはじめ、各種の記念事業を挙行することとしており、その費用につきましては、関係団体との共同により開催する「あしべつスター・マラニック」や50年前に設置したタイムカプセルの発掘・展示など、総額755万4千円を計上しております。